

# コロナ禍の実習室から ～アフターコロナを見据えて～

新型コロナウイルス感染症の流行により、登校の制限や実習の中止・縮小など、看護教育も大きな影響を受けました。今回は福岡女学院看護大学シミュレーションセンター AISim にお邪魔し、センター長の藤野ユリ子先生にコロナ禍での実習代替とアフターコロナに向けた取り組み、普段のシミュレーション教育のアイデアをお伺いしました。

## コロナ禍での看護実習とシミュレーション



### コロナ禍での実習とその補完

**京都科学 (以下京都) :** コロナ禍での実習の状況と補完の方法を教えてくださいませんか？

**藤野先生 (以下藤野) :** コロナ禍で福岡女学院看護大学 (以下福女) は、2020 年は全体の 2~3 割程度しか実習に行けない、また行けたとしても午前中のみといった、限られた時間での実習となりました。2021 年の状況は変わりましたが未だ制限はあり、実習目標を到達するために代替実習でどのように補うのが課題となりました。そこで、福女の成人看護学実習では「**全く臨地実習に行けなかった場合**」を想定した学内実習プランを作成しました。そして実際に実習を行ってみて、**臨地実習で実施できなかった内容を学内実習で補う**という方法を取っていました。

成人看護学 (慢性期) 学内実習の概略(3週間)

実習日程	実習内容	方法
1	実習オリ 患者情報収集、患者状況観察	教育用電子カルテ 動画・静止画による情報収集
2~4	情報収集・アセスメント	①実習開始までに看護計画記載 ②毎朝目標と計画を発表する
5	看護の方向性確認	③毎朝教員のフィードバックを受ける
6	看護計画発表 (カンファレンス)	④観察結果を SOAP で記載する ⑤経過を記録する (2 週目~)
7~9	計画の修正・実施・評価	■ 対面 (学内日) □ オンライン日
10	患者観察 OSCE	
11・12	退院に向けた教育プラン立案	
13	教育プランの実施 (シミュレーション)	
14・15	サマリー作成・最終カンファレンス	

## 不安な状況下での学生との関わり



### " 学びを保証 " してあげること

**京都 :** 代替実習を行う上で気をつけている点はありますか？

**藤野 :** コロナの制限下では、2 週間すべて実習に行けた学生や全く行けなかった学生もいるため、実習の経験が異なっています。実習に行ける学生にはもちろん実習の大変さがありますし、行けなかった学生には現場に行けていないという焦りがあり、学生への関わり方にはかなり気を遣いました。経験の違いが学

生の不満や不安に繋がらないよう、**違いは認めた上で、実習の目標に立ち返ってそれぞれの学生に到達度を示して認めてあげる**ことを大切にしました。教員が学生の学びを認め、目標に向かって進めていることを保証することで、**学生のモチベーションを保つような関わり**を意識しています。



@福岡女学院看護大学

## アフターコロナのシミュレーション教育



### 実習×シミュレーションで学習効果を上げる

**京都:** アフターコロナに活かせるような発見はありましたか？

**藤野:** コロナ禍で福女では各領域の実習を学内で補えるようなプログラムを作りました。これからコロナが落ち着いても**実習にシミュレーションを取り入れる**ことで、実習の意味も到達度も高めていけるのではと考えています。例えば、術後の観察や初回歩行など、**実習で見学しかなかった項目は学内日にシミュレーションで実施**。学生全員が安全な場所で繰り返し経験することで**気づきや自信を得る**ことができます。コロナが終わったら元通りではなく、今回学内実習を行ったことで得た発見を活かして、より進化した教育を行っていきたいと思います。

### アフターコロナの実習のイメージ

- 実習前** シミュレーションで実習のイメージを取り入れる
- 実習中** 実習で見学しかなかった部分を学内日にシミュレーションで補完
- 実習後** まとめや各学生の看護過程の発表にシミュレーションを織り交ぜて、到達度を上げていく



## 次なる挑戦：看護 OSCE

### 実習にも普段の学習にも活きる仕掛けを

**京都:** OSCE に向けて動き始めていらっしゃるのか。

**藤野:** 昨年度から始めたばかりでまだ実験段階ですが、今後福女では2年生と3年生を対象にした OSCE を予定しています。2年次には、実習前に患者からの情報収集と報告の OSCE を実施。実習で困らないように事前に学内で学んでおきたいという学生のニーズに応える形でこのテーマにしました。3年次は後期の実習前に、**それまでの授業で行ったシミュレーションの**



取材に応じてくださった藤野ユリ子先生

**中からランダムにシミュレーションを実施**する OSCE です。ただ OSCE を実施するのではなく、3年次の初めに事前に学生に告知しておくことで、**普段のシミュレーションひとつひとつに臨むモチベーションも高まる**のではないかと考えています。最初は小さく始めて、手応えを確かめながら進めていければと考えているので、まずは有志の学生を募って実験的に実施していく予定です。

# シミュレーションのアイデアノート

## 場面選びは大切!



どこの場面を切り取って、シミュレーションに採用するの  
かは、指導者のセンスが問われる部分。迷ったら、「**実習  
でよく出会う、学生が困りそうな場面**」から始めてみる。  
実習の現場だと向き合う時間のない、小さな"うまくい  
かなかったこと"で立ち止まって、**ただの失敗で終わらせ  
ない**のは学内のシミュレーションならではの。

## 学生が集中できる空気づくり



「自分がこれを教えたい」ではなく、学生が今何を学ぼうとし  
ていて、そのために教員はこの時間をどう使うべきなのか、常  
に「**学生中心の思考**」でいること。シミュレーションに身が入っ  
ていない学生には、この学びが何に役立つのか改めて伝えて  
みたり、緊張しすぎている学生には安心感を与える関わりをし  
たり…**それぞれの学生にとっていい時間になるように**、ここは  
神経質なくらい気を配る。

## すっきり終われるボリュームに



シミュレーションを作る上で、本当に1コマでできる内容に  
絞り込むことはとても大事。このシミュレーションが終わっ  
たときに学生にどうなっていてほしいのか、**高すぎない目標  
を自分の中で明確にしておく**こと。これができていれば、  
シミュレーションを作り込むうちに内容が膨らんでいって  
も、最初の目標に立ち返って内容の取舍選択ができる。

## 低学年から"学び方を学ばせる"



ディスカッションをスムーズに進めたり、ホワイトボー  
ドに書き込んでいく力は、**低学年から繰り返しシミュ  
レーション**をすることで身につけていくもの。それに  
学生がシミュレーションに慣れて、楽しそうに参加して  
くれる姿は、**教員の自信とモチベーション**に。少しず  
つでも始めれば、共に成長していけるはず。

## 領域や学年を超えて看護を学ぶ仮想の町「ミッションタウン」

福岡女学院で独自に開発しているデジタル教材「ミッションタウン」。  
この仮想の町では年齢や性別も様々な住民が暮らしています。学生は  
アバターとなり住民たちのもとを訪問。場面によって現れる選択問題  
を解きながら、ゲーム感覚でケアを行います。ミッションタウンは自己  
学習の教材としてだけでなく、実際の授業でも活躍。各領域の教員  
は**授業で扱う事例をこの町の住人をもとに作成**します。学生は4年間  
を通して同じ住人の生活に寄り添いながら看護を学ぶことで、目の前  
の健康課題だけでなく**家族背景や生活環境・社会資源も考慮したケ  
アを学ぶ**事ができます。学生が楽しみながら学びを深められることは

もちろん、領域を超えて同じ学習対象を扱うことで、**教員間のコミュニ  
ケーションが増えた**というメリットがありました。



授業で扱う住人の情報を町の中で確認し、予習もできる

## 取材ご協力

### 福岡女学院看護大学

福岡女学院看護大学は、2008年に開学した定員400名の単  
科の看護大学です。キリスト教の理念に基づきヒューマンケ  
アリングを実践できる看護職者の育成を目指しています。本学は、  
2016年度シミュレーション教育センター開設を機に、シミュレ  
ーション教育やICT教材・仮想都市「ミッションタウン」の開発な  
ど領域を超えた教育の実践を特徴としています。



### 藤野ユリ子先生

福岡女学院看護大学  
看護学部 教授  
シミュレーション教育センター  
センター長



こだわりのシミュレーションセンター

# AlSimを探検!

アイシム

福岡女学院看護大学のシミュレーションの要、Alsim。今も進化し続ける九州最大級のシミュレーション教育センターを探検してきました!



## フレキシブルな在宅実習室

一言に在宅と言っても家の環境は様々なので、在宅実習室はいろいろな設定ができるような作りになっています。中でもキッチンやリビングなどの風景が描かれたロールスクリーンは、簡単に環境設定ができるのでとても便利です。



風景を変えるだけでも、学生の想像力を刺激してより設定に入り込んだシミュレーションができます。



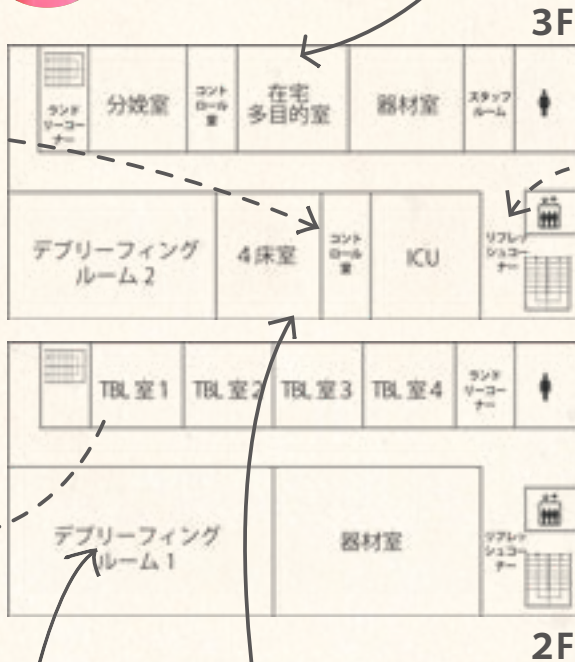
分娩室

## 看護 OSCE の設備を導入

他のシミュレーションルームに比べ活用頻度が少なかった2階のTBL ルームを OSCE ブースにリメイク。各部屋のカメラと放送設備を接続して、3階のコントロール室で一括モニタリングできるようにしました。



TBL (Team Based Learning) 室



入り口の予定表には予約がびっしり。創立から6年経って、今では色々な領域で活用されるようになってきました。



各シミュレーションルームにキャスター付きカメラを設置。撮影した映像は別教室で視聴できるよう接続されています。

## 総勢 100 名のシミュレーションも

ディブリーフィングルーム2つにシミュレーションの様子を配信して、学生 100 名規模でシミュレーション授業を行うことも。



## 最新設備だけじゃない AlSim

AlSim のもう一つの役割は教員同士を繋げる場所であること。領域に関係なくミッションタウンの同じ事例を使い、演習の拠点は AlSim に集約。ソフトもハードも共有することで、コミュニケーションが増え、お互いを知ることができました。



各教室の教員はトランシーバーでやり取りしながら授業の進捗を確認しています。



パッと撮影ができるのは本当に便利。準備のハードルの低さって大切ですなね。

